

【15】虚気（二次的）大運天中殺判別

虚気大運天中殺は大運天中殺の駆け上がり、駆け下がりと言われています。

後天運の大運天中殺が第2句まで駆け上がり、駆けあがった反動で第3句にスライドして、駆け下がります。よって、第2句、第3句、第4句が大運天中殺となります。

第2句に大運天中殺の動きが顕われ、第3句、第4句が1セットとしての大運天中殺として顕われます。

宿命の年干支、または日干支と、大運第一句との関係で発生致します。

この原理は、大運の第1句が何らかの運勢の動きによって虚無となるか、過剰燃焼して虚無となる条件のとき発生します。

大運第1句が虚無となるのは、第1句が大運天中殺となるときです。

大運第1句が過剰燃焼となるのは、第1句が宿命と律音、納音、大半会、天剋地冲となるときです。

第1句が虚無となるため、そこを埋め合わせしようと、大運120年のなかの天中殺が、第1句まで駆けあがって来るのです。そして、第1句は虚無なので、第2句まで駆け上がって流れこんで来るのです。そして、弓の反動のように、駆けあがった反動が、第3句、第4句にスライドしてずれ込むのです。これが、駆け下がりです。

ですから、大運の初句、第1句が虚無になる条件を捜します。

（ 後天運の大運、第三句と第四句を大運天中殺として鑑定致します。）